

自己評価・外部評価 評価表

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価				
				実施状況				実施状況				
				できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]												
(1) 理念の明確化												
①	サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	6	5			・理念を事務所に掲示してあり、いつでも確認できる。	8	2		・事務所内に掲示していつでも確認するとともに個々の職員が理念に沿った支援とは具体的にどうすべきか、研修で検討し意識の統一、向上が出来るが良い。 ・事業所理念がいつでも確認できる位置に掲示されている理由(目的)を皆さんで共通理解をすることも必要ではないか。 ・理念はいつでも見ることが出来る場所に掲げ、時に全員での唱和などで再認識していく事が有効に思う。
(2) 適正な人材の育成												
①	専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している	5	6			・ミーティングや研修等に参加し、役割について学習をしている。 ・掲げている目標を再認識している。 ・ミーティングで内容を伝え確認できている。 ・サービスについて個人でも書物等で知識を深めるように努めている。	6	4		・理念についての具体的な目標設定と支援に対する評価が出来ていると良い。 ・日常の業務が常に理念に基づいている事を、折に触れて確認していくとさらに理解が深まると思う。 ・各個人が努力していると思う。
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している	3	8			・オペレーターだけの判断では一人に責任を押し付けることになるので、不安時は管理者や他職員に相談し一人判断しないとの指導あり。 ・コロナ禍のため外部研修は難しいが、法人内での研修を行っている。 ・ヘルパー研修など専門技術向上に向けた研修への積極的な参加と、意欲的な情報収集に心がける事で援助に活かしている。	3	7		・コロナ禍ではありますが、法人内外の研修についてリモートにするなど研修方法を工夫して今後も資質向上に努めてください。 ・オペレーターについての指導は法人としてあったのか?(事業所コメント欄にある「押し付ける」という表現は対応者への負担を強く感じた。) ・外部研修はどこでも困難な状況にある。工夫して行っていく必要が有る。 ・年間計画にびっしりと研修予定が組み込まれており、計画を立てるだけでも大変だと感じる。日々の業務の中で計画通り遂行することは困難と感じるが継続してほしい。 ・コロナ禍で思うよう参加できない状況だが努力されている。 ・オペレーターの判断で苦慮した事はあるか。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	事業所評価				外部評価					
				実施状況				実施状況					
				できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない	全くできていない		
事業所コメント				外部コメント									
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]													
(2) 適正な人材の育成													
①	専門技術の向上のための取り組み	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	5	6			<ul style="list-style-type: none"> 職員固定のご利用者もいるが、そうでない方は職員の性別関係なくシフトに入っている。 職員個々が統一したサービス提供ができ、尚且つ技術の向上を目指せるよう配慮している。 職員の得手不得手を考慮することで、個々の向上心を引き出すようにしたい。 	3	6			<ul style="list-style-type: none"> 利用者個々の状態や希望に合わせてサービス提供時の配置をするのは、配慮することが多くなかなか困難なことではないかと思われる。現状の中で十分配慮されていると思う。 統一したサービス提供や向上心を引き上げるために、具体的にどのような取り組みをしているかが分かると評価しやすいと感じた。 一人一人の力量を見ながら、丁寧にシフト分けしていると思う。
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	4	7			<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用し共有できている。 訪問看護からの研修やヘルパー内研修などを活用した職性について学び理解する機会を持っている。 医療的な状態にあるご利用者がいた際は、訪問看護に連絡し指示・助言を仰いでいる。尚、内服関係については慎重に対応し、訪問看護の申し送りの確認をしている。 	3	7			<ul style="list-style-type: none"> タブレットだけでなく、緊急時は電話等で対応がされていると思う。医師、看護師、介護支援専門員等とはフェニックスネットを活用しての情報の共有がなされていると感じる。 理解、認識の共有のため、タブレットや研修等積極的に取り組んでいると感じた。 職員の回答が「ほぼできている」が半数を占めている理由があるようなら、次年度に向け解決できると、良い多くの職員が「できる」の返答に変わるのではないかとと思う。 尚福はヒヤリハットが一番出やすい項目だ。十分連携を取る必要。 タブレットの活用は情報の共有だけでなく、どのような対応をしたかなども確認できるため有効活用が出来ると良い。尚、確認した場合はチェックをして貰うとありがたい。 訪問看護への連携が出来ており、その都度対応が出来ている。 医療的な状態にある利用者とはどのような状態か。 看護との連携で難しいケースはあるか。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	事業所評価				外部評価			
				実施状況				実施状況			
				できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない	全くできていない
事業所コメント				外部コメント							
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]											
(2) 適正な人材の育成											
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	5	6		<ul style="list-style-type: none"> •利用者のニーズや要望に沿った配置やシフトの工夫が出来ている。 •訪問追加や新規依頼の対応をしており、柔軟な対応をしている。 •24時間交代シフト業務を生かし、職員全体でご利用者の特性を理解し共有するよう努めている 	3	7		<ul style="list-style-type: none"> •24時間365日の対応ができるように、幅広いシフト体制で柔軟に対応できていると思う。 •利用者に合わせた業務シフトが出来ている。 •状況に合わせ、随時訪問をされている。 •シフト作成は大変ですが、利用者の意向に沿えるよう努力していると思う。
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	3	8		<ul style="list-style-type: none"> •大いに反映されている。 •定期的に開催されている。 •運営推進会議の内容及び反映についての理解にかけている部分がある。 •前年度の外部評価からの助言に従い、改善に向け、今年度のサービスに反映できるように努めている。 	1	9		<ul style="list-style-type: none"> •運営推進会議の内容を出席していない職員もしっかりと情報の伝達を受けて理解しサービス提供に反映できるように努めてほしい。 •連携推進会議に参加させて頂いた際は様々な意見交換がされており、評価されてよいと思う。それが、どのようにサービスに反映されているのかを具体的に評価されると良いと思う。 •推進会議への理解や前年度からの改善策に取り組んだ結果が分かると思うし、評価しやすいと感じた。 •理解を深めるために取り組んでいる事はあるか。 •会議で有効な助言はあると思うが、それがどう生かされどのように変化したかを知る事が外部者にはないと思う。 •事業所側の運営状況を適切に報告し、反映されるよう努力されている。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	事業所評価				外部評価			
				実施状況				実施状況			
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない	できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない
事業所コメント								外部コメント			
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]											
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備											
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	5	6		<ul style="list-style-type: none"> フェニックスネットを通して多職種間で情報共有している。尚、電話連絡で受けた場合は、速やかにタブレット入力することで共有することが出来ている。 フェニックスネットの連携も随時進めており、連携出来ていない事業所へは電話等で連絡を行っている。 	3	7		<ul style="list-style-type: none"> フェニックスネットを大いに活用して、迅速に対応できていると感じる。フェニックスネットに入力しただけでなく、連携相手に情報が適切に伝わっているかの確認もその都度行われているように感じた。 タブレットは上手に活用できていると思う。 ICT活用によりよく連携されている。
(5) 安全管理の徹底											
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	1	10		<ul style="list-style-type: none"> 災害時の訓練をサポートセンターで定期的に行っている。 職員の連絡体制は出来ている。 安全管理がされており、安心して作業が出来る。 各種マニュアルを作成している。 ご利用者の入れ替わりがあるため、定期的に見直す必要が有る。 夜間の防犯対策までは行えていない。 今年度はコロナ対策として、事業所内での統一した対応を講じている。 具体的な内容について、対策と周知が十分でない所がある。 	2	8		<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対応、交通安全、運転時の事故対応の他に、今年度はコロナ対策のマニュアルの作成もなされ適切に対応できていると思う。 今年度、課題として上がっている点について改善されればと思う。 参考までにコロナの対策をどうしているのか聞きたい。 災害時の対策はこの事業所も整備が進んでいると思うが、定期的に見直していく必要性は感じている。 災害の種類に合わせたマニュアルの構築と、机上シミュレーション、実際の訓練等でさらに体制を強化していくと安心して業務に取り組めると思う。 夜間防犯については「ココセコム」導入により安心材料になった。 コロナ禍により緊急に職員不足になることもシミュレーションされており、事業所内のまとまりを感じる。・コロナ対策は大変だったと思う。これからまだ続きそうだが、職員の精神的部分のフォローをして乗り切ってほしい。
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	5	6		<ul style="list-style-type: none"> 書面での個人情報は鍵付き書庫の保管している。尚、タブレットやパソコンはパスワード入力が必要なため、関係者以外は見ることが出来ない。 定期的な確認が必要。 	1	9		<ul style="list-style-type: none"> 個人情報を保管した保管庫の鍵の有無の確認や破棄する書類の取り扱いにも最新の注意を払い個人情報の保護に努める。 個人情報の適切な取り扱い、保護の方法として明確に対応が決まっていると思うが、回答の「ほぼできている」が半数を超えている点が気になる。 当事業所ではタブレットや携帯電話も不在時は鍵のかかる場所に保管している。高い職業倫理に基づいて看れされる事を願う。 しっかりと管理されている。 継続的に確認することが必要。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	事業所評価				外部評価								
				実施状況				実施状況								
				できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない	全くできていない					
事業所コメント				外部コメント												
II 過程評価(Process)																
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供																
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成																
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	2	9						<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有できている事で、全体を見ながら適切に行われている。 ・生活リズムよりADLに着目している。 ・その人らしい在宅生活が維持できるよう提案されている。 	2	8			<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者の状態の変化の応じて、その都度アセスメントがなされ、必要な関係機関に伝達し情報の共有と支援内容の検討、変更がなされていると感じる。毎月看護のアセスメントも適切に実施されていると思われる。 ・次年度は事業所コメントにもある「生活リズム」にも着目すると、より「その人らしい在宅生活」の維持が強化されるのではないかと。 ・定期随時の特性を生かし、利用者のニーズに合わせたサービスが出来るとう良い。 ・帆の方に必要な内容・時間を工夫して帝王されている。
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	4	7							<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用することで、情報の共有は出来ている。 ・毎月の看護アセスメントを確認している。 ・計画書の変更(ご利用者の機能や体調変化等)に合わせたアセスメントを随時行っている。 	3	7		
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	3	8						<ul style="list-style-type: none"> ・日々の援助で築いたことを声に出し、担会等で意見交換されたことがプランに反映されている。 ・その人らしい在宅生活が維持できるよう提案されている。 ・自立支援を促すような計画・支援を行っている。 ・回復や改善の見通しがあれば、アセスメントや情報共有しながら計画を立てる必要が有る。 	2	7			<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の場合は、本人、家族の希望から現在の状態より悪くならない様に、現状を維持できれば良いという思いでいる方が大方であると思われるが、個々の状態、希望に合わせた提案ができていいると思われる。 ・気づきを声に出し、検討・見直し等をチームで関わりながら進められている。 ・自立支援やその人の生活を見てサービス提供している。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価					
				実施状況				実施状況					
				できている	ほぼできている	できていない ことが多い	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない ことが多い	全くできていない		
事業所コメント				外部コメント									
II 過程評価(Process)													
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供													
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成													
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないよう、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている	1	10							<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活が継続出来るよう自立支援を軸としたヘルパーの支援を行うよう、計画作成をしている。 ・計画作成は行われているが、ご利用者及びご家族の医療依存が強いと計画の実現が難しい事がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者自身の希望とご家族の意向と決して同じではない時が多く、計画作成には苦慮することがあると思う。担当ケアマネをはじめとする関係者で十分検討し、ご本人にとってより最適な支援計画の作成を願う。 ・事業所の実施状況の数のばらつきが大きい事が気になる。 ・計画の実現に向けて取り組んだ事例はあるか。 ・毎日の支援を漫然と行うのではなく、いつもと何か違う・変だ・これでいいのか？という高いアンテナをもってサービスに当たる事が重要。 ・利用者及び家族へは分かりやすい表現が大切であり、相手の目線に立って伝えていくと良い。 ・大変だと思うが、今後も在宅生活の継続が出来るよう支援願う。
(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し													
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	6	5							<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の状態や状況に合わせた随時訪問を行い、生活が継続出来るよう支援している。 ・職員個々で助け合い協力することで、サービスを提供している。 ・柔軟に対応できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者の心身の状態や介護するご家族の状況に合わせた柔軟な対応がなされていると思う。 ・チームが協力し合い、利用者第一に支援する体制を作っている。
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	4	7							<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットをその都度確認はしているが、毎月のモニタリング報告でケアマネは状態把握ができ支援内容の検討、プラン変更に反映できていると感じる。 ・職員がここに情報を収集し次に生かしている。 	

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	事業所評価				外部評価				
				実施状況				実施状況				
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない	できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない	
事業所コメント				外部コメント								
II 過程評価(Process)												
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供												
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供												
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービスの提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	6	5			<ul style="list-style-type: none"> ・看護との連携は取れており、必要時には相談や指示を仰いでいる。 ・チームケアが出来ている。 ・情報交換をしながら、専門性を生かした役割分担をしている。 	7	3		<ul style="list-style-type: none"> ・介護と看護の専門性を活かした支援ができており、必要時は適切な情報の共有、相談対応がなされていると思う。 ・それぞれの専門性を活かしてチームで支援していると思う。 ・出来ていると思う。 ・利用者の生活のため、訪問看護との連携は大切。
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	6	5			<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを通して最新情報を確認することができ、指導・助言を受けている。 ・丁寧に行われている。 	7	3		<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な看護に視点から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復など必要な指導、助言が行われていると思う。 ・タブレットが有効活用されていると思う。 ・看護職からどのような指導・助言を得ているか？う悪に立ったことがあれば教えて欲しい。
10												
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	5	6			<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際に、書面をもとに説明を行っている。 ・退院前カンファレンスや担当者会議において、十分な情報提供並びに説明が行われている。 	5	4		<ul style="list-style-type: none"> ・事前の説明や契約等の場合、ご本人だけでは不安な場合は、ご家族や代わりとなる方の都合に合わせて訪問説明の時間を設定し、利用者やご家族の不安がない様に配慮されていると思う。 ・半数以上が「ほぼできている」と回答しているが、利用者・利用者家族・事業所との信頼関係や生活の安心感において大変重要な要素と考える。 ・土の職員から見ても「できている」という回答になるような取り組みをすることで、さらに良いサービスになっていくと思う。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	事業所評価					外部評価				
				実施状況				事業所コメント	実施状況				外部コメント
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない		できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない	
II 過程評価(Process)													
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供													
(4) 利用者等との情報及び意識の共有													
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	5	6			<ul style="list-style-type: none"> 計画書を持参して、ご家族及びご利用者に分かり易い言葉を用いて説明を行い同意を頂いている。 説明を行う事で、計画目標に理解及び共有の努力がなされている。 	3	5			<ul style="list-style-type: none"> 説明の際は、分かりやすい言葉を用いて利用者、家族の立場に立った対応がなされていると思う。 19番と同じ。 継続して行う事により理解度も増すとと思うので、今後も努力してほしい。
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	6	5			<ul style="list-style-type: none"> 異常や変化が生じた際は、速やかにご家族への連絡・報告を行っている。 状況変化に応じて、適宜適切な報告や相談を行っている。 	7	2			<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の状況の中、直接県外在住のご家族に来て頂く事が出来ないが、必要時は適切に電話、文書等で報告、相談ができていると思う。 19番と同じ。 早期対応はこのサービスの強みと感じる。
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント													
(1) 共同ケアマネジメントの実践													
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	6	5			<ul style="list-style-type: none"> フェニックスネットの活用のほかに、電話での情報共有を行っている。 状況に応じて提案できている。 ご利用者の生活維持や向上のため関係機関に情報提供し、サービス調整や必要に応じて共同で決めている。 	7	1			<ul style="list-style-type: none"> 個々の利用者の状態の変化やご家族の状況の変化に応じて、必要な関係機関に伝達し情報の共有と支援内容の検討、変更がなされていると思う。 出来ている。
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	4	7			<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議の出席や照会で、様々な提案を行っている。尚、早急な対応を要す際はケアマネに連絡を取り状況説明と相談をしている。 ご利用者の生活維持や向上のため、状況に応じてより良い環境と生活を維持するために提案をしている。 	3	5			<ul style="list-style-type: none"> 配食業者や宅配サービスの提案や、地域の見守り、ごみ出しの支援等、民生委員をはじめとする地域機関との連携がはかれていると感じる。 19番と同じ。 地域のフォーマル・インフォーマルサービスを知っていないと、提案等もできないため難しい。 出来ている。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価				
				実施状況				実施状況				
				できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	
事業所コメント				外部コメント								
II 過程評価(Process)												
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント												
(1) 共同ケアマネジメントの実践												
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	5	6			<ul style="list-style-type: none"> ・担会への参加及び会議資料を参照している。 ・お互いが情報提供し交換されている。 ・ケアマネを中心に多職種連携が出来ている。 ・担当者会議により情報提供および交換を行い、共有の場となっている。 ・コロナの関係で、照会での回答も多かったが情報提供は行っている。 ・担会の場だけでなく、サービス利用状況だけでなく、計画目標の達成状況及び今後、先の目標についても状況提供をするように心がけている。 	3	6		<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットを活用したり、毎月のモニタリング、必要時の担当者会議等を通して情報の共有がなされている。担当ケアマネにとっては、毎日関わっているヘルパーの視点、判断、情報が何よりだと思います。関係機関で共有できていると思う。 ・現在の社会情勢的に担当者会議自体が減少しているが、情報提供は計画に沿って行うと分かりやすいと思う。 ・担当者会議ではヘルパーの意見や情報が一番。
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献												
①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)	1	10			<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議において、インフォーマルなサービスを計画に組み込むことが出来る。 ・ケアマネを通して検討している。 	1	7		<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスは、地域性でサービスの種類や量に差があるが、必要な検討がなされていると思う。 ・大半の職員が「ほぼできている」という回答に留まった理由は何か。 ・管理者やサービス提供責任者が中心となるが、他の職員にも理解が増すように伝えていくと良い。
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	4	7			<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて担当者会議が行われている。 ・退院や退所においては事前に情報を受け、在宅生活がスムーズに行えるようにしている。 	1	8		<ul style="list-style-type: none"> ・入院時の情報提供や退院時のカンファレンス、担当者会議等で、必要な関係者で情報の共有、検討がなされていると思動かせる。 ・コロナウイルス感染症の関係で担当者会議自体が少なくなっているが、出席できるよう日頃から工夫していると思う。 ・管理者やサービス提供責任者が中心となるが、他の職員にも理解が増すように伝えていくと良い。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価				
				実施状況				実施状況				
				できている	ほぼできている	できていない ことが多い	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない ことが多い	全くできていない	
事業所コメント				外部コメント								
II 過程評価(Process)												
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント												
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献												
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている <u>(※任意評価項目)</u>	1	10			・ケアマネージャーを中心に出来ている。 ・圏域会議において、他職種からの意見等頂いている。	1	8		・以前は、各種研修会や行政主催の多職種交流会、地域ケア会議、圏域会議等の検討する場が設けられていたが、今年度はコロナ禍の関係もあり実施が少ない。 ・25番と同じ。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画												
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案												
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	6	5			・あらゆる意見が記録されていて、よく理解できる。 ・実施内容を把握しきれていない。 ・会議録は迅速に作成し、情報発信ができるようにしている。	4	6		・介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われていると思われる。 ・会議録は迅速かつ詳細に作成されているようだが、内容を把握しきれていない職員もいるようだ。何故把握しきれないのかが分かると改善・評価がしやすくなると思う。 ・昨年度の自己評価に比べると「できていない」の回答が無くなった分、何かしらの対策を講じたと思うが、具体的上げておくと役立つと思う。 ・情報提供から地域の方の意見を聞き出し、ニーズ把握に努めてほしい。
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている		11			・広報紙やセンター主催のオレンジカフェ、まちなね等に地域の方も参加されている。 ・個人として欠けている部分がある。	1	9		・ケアマネからの話では、すぐに利用に繋がらなくても利用者宅に向いて利用方法について説明をくださったたり、分かりやすいパンフレットの作成がなされているためにそれを元に説明することができている。 ・広報誌やオレンジカフェなどを取り組み、地域に発信されており良いと思う。また、今年特に力を入れたことがあれば評価されると良いと思う。 ・コロナ禍で難しい状況だが、広報誌などの作成で地域に積極的に情報発信している様子が見える。 ・医療関係者でも認知度がまだ低いのが現状と思う。何か良い広報活動があればよいのだが。 ・今回パンフレット作製したことから、是非、多方面に情報発信してほしい。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価					
				実施状況				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	でき てい ない	全 く で き て い ない	できて いる	ほぼ できて いる	でき てい ない	全 く で き て い ない		
事業所コメント				外部コメント									
II 過程評価(Process)													
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画													
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画													
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	1	10							<ul style="list-style-type: none"> ・研修等への参加で学習する機会がある。 ・個人としては把握しきれていない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていると思う。 ・「個人として評価しきれていない部分」も付いて、何故把握がしきれなかったのかが分かると評価しやすいと思う。 ・ここで理解を習得するには負担もあると思う。要約したものを事業所から発信してはどうか。
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	4	7							<ul style="list-style-type: none"> ・担当地域全体に展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていると思う。 ・「個人として評価しきれていない部分」も付いて、何故把握がしきれなかったのかが分かると評価しやすいと思う。 ・事業所コメントにあるように、取り組みが明確なはずだが事業所の回答にバラつきが生じているのは何故か。 ・担当エリア外でもニーズがあれば対応している。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている <u>(※任意評価項目)</u>	1	10							<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアが出来ている。 ・推進会議において意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていると思う。 ・25番と同じ。 ・推進会議で委員の方からの意見を汲みだして、地域づくりを進めていけると良い。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価					
				実施状況				実施状況					
				できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	できている	ほぼできている	できていない	全くできていない		
事業所コメント				外部コメント									
Ⅲ 結果評価(Outcome)													
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	3	8			<ul style="list-style-type: none"> ・多職種やご家族と協力し、ADL・生活の質を落とさないよう、目標達成を多く積み重ねられるようにしている。 ・サービスが入る事によりADLが向上し、目標が達成できた。尚、更なる目標に向け取り組んでいく。 ・計画目標は達成されているが、ADLは安定していても認知面におけるの検討の必要性が感じられる。 ・計画目標の達成や状態維持が図られている。 	1	6			<ul style="list-style-type: none"> ・サービス導入後、「変化がある人」「そうでない人」がいる。だが、良い方向へ変化できるような工夫をされていると思う。 ・今年度は認知面についての検討する機会は少なかったのか。 ・サービスの導入で生活が改善すると職員のモチベーションにつながると思う。計画評価を適切に行い、利用者に合わせてサービスの継続が出来ると良い。 ・軽度の日との生活を支えるために、現状のサービスは有効なサービスであると感じる。ここから、維持・継続できるようにすることも素晴らしい働きと思う。
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	4	7			<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者及びご家族から安堵や感謝の言葉を頂くことがある。 ・「来てくれて安心」「ありがたい」など安心感が言葉の端々に出てくる。 ・在宅生活の継続が出来るよう、チームケアが出来ている。 ・ご利用者とのコミュニケーションをとり、不安等の相談あれば関係機関と検討することで安心して在宅生活が送れるように支援している。 	2	6			<ul style="list-style-type: none"> ・サービス導入後、「変化がある人」「そうでない人」がいる。だが、良い方向へ変化できるような工夫をされていると思う。 ・今年度は認知面についての検討する機会は少なかったのか。在宅生活を継続する中で「相談ができる相手」がいる事は利用者・利用者家族にとって大変大きな安心につながっていると思う。今後も、利用者・利用者家族が安心して在宅生活を送れるように支援してほしい。 ・定期随時は素晴らしいサービスだと思う。今後も提供範囲を拡大し。在宅療養者の支援を期待する。 ・利用者の声や、私たちのやりがいとなる。常に相手の立場になり、今何が必要かを考えながら動いていく。今後も活躍をさらに期待する。 ・美沢の特徴の独居の方には、とても心強いサービスだと思う。